

「RC建築構造の設計：オーム社」正誤表

(平成16年3月25日第1版第1刷)

J S C A 出版編集委員会

発行：平成16年7月1日

頁	行	誤	正
50	下から17行目	Pt=0.8%	Pg=0.8%
50	下から9行目	208.4kN	202.0kN
53	図2・9	X方向、Y方向	Y方向、X方向
66	表中のR階屋根 x (0.6-0.135) x x (0.6-0.15) x
66	下から1行目	RC資料第2章の.....	RC資料第6章の.....
67	上から9行目 固定モーメント法計算 表中の数値	13.9	31.9
67	上から17行目	(左側)Q ₀ =.....、(右側)Q ₀ =.....80.2	(左側)Q=.....、(右側)Q=.....71.4
67	下から13行目5402 x 10 ⁻⁶ =.....540 ² x 10 ⁻⁶ =.....
90	上から1行目	N・Y	N・X
90	下から15行目	571.0	5571.0
96	上から9行目	My 2 端上端=..... x 345 x 648=311kN・m	My 2 端上端=..... x 345 x 1.1 x 740=391kN・m
96	上から10行目	My 3 端上端=..... x 345 x 648=156kN・m	My 3 端下端=..... x 345 x 1.1 x 740=196kN・m
96	上から11行目+(311+156)=183+(391+196)=200kN
97	上から10行目	(図2・16参照)	(図2・17参照)
97	図の番号	図2・16	図2・17
97	下から10行目	3章の4・1(4)に.....	3章の4・5(2)に.....
100	上から17行目	p _w =0.2%..... -D13@200.....	p _w =0.3%..... -D13@100.....
103	図の番号	図2・17	図2・18
109	土質柱状図	$\bar{N}_s = 14.5$	$\bar{N}_s = 40.0$
112	下から3行目	=187N/mm ²	=187N/cm ²
112	下から1行目 x B ^{-3/4} x 10 = x B ^{-3/4} =
113	下から3行目 x 1.00=2.57m x 1.57=4.04m
128	底部分梁断面リスト	(G21、G22、CG1、CG2)梁せい 500	(G21、G22、CG1、CG2)梁せい 550
130	柱断面リストの符号	₁ C、 ₃ C、 ₄ C、 ₄ C	₁ C、 ₂ C、 ₃ C、 ₄ C、 ₁ C、 ₄ C、 _{1a}
131	柱断面リストの符号	P	P ₁
133	G21の梁せい	500	550
152	図3・1右下	(注)：3・4・8 二次設計〔解説4〕参照	(注)：3・4・8 二次設計〔解説〕参照
155	上から14行目)設計方針は許容応力度設計を採用する。)設計方針はAルート(図1・12)を採用する。
156	上から2行目はRC規準に準拠した。はRC規準および関連政令に準拠した。
156	上から3行目許容応力度および材料強度を.....。許容応力度を.....。
167	上から16行目	Q=81.0 kN	Q=81.0 kN+ (97.7-48.8) /5=90.8 kN
167	連続小梁の応力	X4-X5間のM ₀ -0.65Cの下に示す応力(47.9)	X4-X5間のM ₀ -0.65Cの下に示す応力(74.9)
167	上から24行目	中央(X2~X3間)	中央(X2~X3間、X4~X5間)
167	上から27行目	中央(X2~X3間)	中央(X3~X4間)
168	上から2行目	せん断力はQ ₀ =81.0 kN	せん断力はQ=90.8 kN
177	上から1行目	(3)水平荷重時応力図	削除(P178以降が(3)水平荷重時応力図となる)
178	上から1行目		(3)水平荷重時応力図 を追記
183	上から24行目	d=630mm、j=630 x 7/8 = 551mm	d=900mm、j=900 x 7/8 = 787mm
183	上から26行目	bjfs=700 x 551 x 0.79 x 10 ⁻³ =305 kN	bjfs=700 x 787 x 0.79 x 10 ⁻³ =435 kN
183	上から28行目	bjfs=700 x 551 x 0.79 x 10 ⁻³	bjfs=700 x 787 x 0.79 x 10 ⁻³
183	上から29行目	=457 kN < 646 kN NG	=652 kN > 646 kN OK
183	上から 30~33行目	超過せん断力 Q=646-457 = 189 kN Q/bj=189 x 10 ³ /(750 x 551)=0.46N/mm ² p _w =0.002+0.46/(0.75 x 295)=4.1 x 10 ⁻³ p _w =0.41%	(左記を削除して下記文章に換える。) C1Aは1階の壁付き柱であり、高軸力となることを考慮して、p _w =0.4%以上を配筋する。
184	上から1行目	$x = \frac{127 \times 3}{700 \times 0.0041} = 133mm$	$x = \frac{127 \times 3}{700 \times 0.0040} = 136mm$
189	上から5~6行目	、折曲げ部余長さを必要定着長さ	、折曲げ部余長を必要定着長さ
199	上から2行目	、柱と同じく1.5倍の割増しを行い、	、柱と同じく1.5倍の割増しを行い、
251	上から11行目	3・4・1(4)〔解説5〕	3・4・1(4)〔解説3,4〕

252	(c) その他	手摺高さ H=1100m	手摺高さ H=1100mm
260	下から 7 行目	$f_s b_j = \dots$	削除
260	下から 6 行目	あばら筋比は、	あばら筋は、
272	上から 5 行目	せん断補強筋：SD295A	KSS785 相当
272	下から 8 行目	$p_w = 0.002 + \frac{0.86}{0.5 \times 295} = 7.83 \times 10^{-3} \rightarrow p_w = 0.78\%$	$p_w = 0.001 + \frac{0.86}{0.5 \times 585} = 3.94 \times 10^{-3} \rightarrow p_w = 0.39\%$
272	下から 7 行目	4 -D16	4 -S16
272	下から 6 行目	$x = \frac{199 \times 4}{800 \times 0.0078} = 127mm \rightarrow 4 - D16@100$	$x = \frac{199 \times 4}{800 \times 0.0039} = 255mm \rightarrow 4 - S16@100$
276	下から 10 行目	RC 規準 19 条には付帯梁の設置が推奨されている。	RC 規準 19 条には付帯梁を設置する場合の推奨値が示されており、付帯梁を省略する場合の扱いも解説されている。
276	下から 2 行目	計測	設計
280	上から 13 行目	FG4A	fG4A
280	上から 15 行目	FG5A	fG5A
293	3 階床梁伏図	2,3 通り EW20	2,3 通り EW27
340	上から 12 行目	法 (第 3 章参照)	法 (第 2 章 3・6 参照)
340	下から 6 行目	… 部材の降伏以前の剛性変化を…	… 部材の降伏以後の剛性変化を…
340	下から 4 行目	略算的に部材両端で…	部材両端で…
343	上から 10 行目	…、ルート 3 では 1.5 だよ。	…、ルート 3 では 1.5 とする。
368	上から 8 行目	また、許容式(1・35)式と…	また、許容式(1・34)式と…
387	上から 2 行目	…2・21,2・24 は、…	…2・21,2・23 は、…
389	上から 3 行目	… , 保有水平耐力 必要保有水平耐力	… , 保有水平耐力 必要保有水平耐力
390	上から 10 行目	Ko : たわみ倍率	K : たわみ倍率
410	付表 5・1 の J 欄	… + I - 0.5)	… + I ^ 0.5)